

シーボルト上陸の記念碑

周防大島町文化財保護審議会委員 川口 智

沖家室島の対岸、牛ヶ首と呼ばれる岬の付け根に、シーボルト上陸の記念碑がある。

フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト（1796～1866）は、鎖国下の日本に西洋医学や博物学を伝え、その一方で、当時の日本の実像を広くヨーロッパに紹介した人物として知られている。

ドイツの医学者の家に生まれたシーボルトは向学心が旺盛で、医学のほか植物学・地理学などを学び、東洋の研究にも興味を抱いて、当時、東洋との貿易が盛んであったオランダへと渡った。

初来日は文政6年（1823）から同12年（1829）までの6年間で、オランダ東インド会社の長崎出島商館医員という肩書きではあったが、オランダの国益のために、その貿易相手国であった日本を総合的に調査研究するという使命を帯びていた。

日本駐在中は長崎の出島や鳴滝塾で、病人の治療や弟子たちの教育に当たりながら日本についての調査研究を進めていたが、外国人が自由に日本国内を

旅することは禁じられていたので、その行動範囲は限られていた。そうした中、オランダ商館長の江戸参府に随行する機会に恵まれ、旅の途中でさまざまな調査記録を遺したのである。

シーボルトが著した『江戸参府紀行』によると「文政9年（1826）3月2日、上関の室津と長島との間の海峡を通って牛ヶ首沖で碇を下ろし、翌々日の3月4日、午前9時過ぎに牛ヶ首へ上陸、植物や地質について調べた後、午後に出帆し大崎下島へと向かった」とある（「」内は要約）。

シーボルトの上陸は、この辺りが古来から海上交通の要衝であったこと、一つの証左であろう。



▶シーボルト上陸の記念碑

訪問型スマホ教室を開催します！

ご自宅や公民館など、ご希望の場所へお伺いし、スマホに関するお悩みを相談できる「訪問型スマホ教室」を開催いたします。

今年度からは、スマホ指導員の研修を受けた町内の「スマホ指導員」が講師として訪問いたします。地域の身近なスマホ指導員が皆さまのペースに合わせて丁寧に対応しますので、スマホに慣れていない人でも安心してご相談いただけます。ぜひこの機会にお申込みください。



- 募集期間** 5月15日(金)～
- 定員** 先着30組（1組あたり1～3名程度）
※定員に達した時点で募集を締め切らせていただきます。
- 開催期間** 6月1日(月)～令和9年1月31日(日)
- 場所** ご自宅や公民館などのご希望の場所（町内）
- 時間** 60分程度
- 参加費** 無料
- 申し込み** 電話、もしくは次の二次元コードよりお申込みください。



※お申込み後、スマホ指導員より日程調整のご連絡をいたします。

問い合わせ
政策企画課 DX推進班 ☎ 0820-74-1007